

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-141	C-152	23-409	独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 佐久間寛 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)			
Autistic Personality Traits and Treatment Outcome for Alcohol Use Disorders 自閉症のパーソナリティ特性とアルコール使用障害の治療予後			
執筆者			
Hildebrand Karlén M, Stålheim J, Berglund K, Wennberg P.			
掲載誌			
J Nerv Ment Dis. 2021 Sep 1;209(9):665-673. doi: 10.1097/NMD.0000000000001357.			
キーワード			PMID
自閉症、発達障害、アルコール依存症、予後、こだわり			33966015
要旨			
<p>アルコール使用障害 (AUD) はじめ、精神科治療に対する性格特性の重要性は広く認められている。一方で自閉症スペクトラム障害に関する研究は近年進歩しており、これらの神経精神疾患における行動特性は、精神病理学の内外の次元に存在することが強調されている。本研究では、AUD 治療の終了前後の自閉症機能に関連する性格特性とアルコール使用レベルの関係を調べた。対象は AUD と診断された 165 人で、AUD 治療に関する縦断的研究プロジェクトの一部であった。パーソナリティに関するアンケート (Structured Clinical Interview of Personality Disorders II および Temperament and Character Inventory) のデータを使用して、生活背景や治療結果に関連するウィングのトライアド内の行動に基づく自閉的パーソナリティ特性 (APT) を評価した。選択された APT 項目は、社会的相互作用と固執性に重点を置いたパーソナリティ機能を示していた。特定の質問項目だけが、治療開始から 2.5 年後にも問題のある飲酒パターンが残っていることを示しており、それは恐怖症、強迫性障害、統合失調型人格の特徴、および頑固さ/強情さを伴うものだった。影響は限定的ではあるものの、APT の程度は治療開始時の飲酒量が多いことと関連しており、社会的な交流や頑固さに関連する症状は、治療開始から 2.5 年後にも問題のある飲酒パターンが残っていることに関連していた。このような特徴が高度である場合、治療効果の重要な要素である他者からの助言を受け入れ、治療同盟を確立することが困難になる可能性があるため、臨床医にとって、このような特徴の評価は重要であることが示された。</p>			